

Gakushikan

だより

7・8月合併号



2012.7.24発行

7月23日からいよいよ夏期講習がスタートしました。

今回の學志館だよりは7・8月合併号として、各講師の先生方から夏を有意義に過ごすためのヒントや心がけることなどについて、熱くあつく（暑く？笑）語ってまいります。ぜひ自分に活用できることはすぐにでも実行にうつして、この夏を自分にとってより意味ある夏にしていきましょう！！

☆ 志村正明先生より

夏休みの過ごし方

学生の頃、休みに入る前にはいつもあれをやる、これをやると思っていたけど、実際、休みに入るとその何分の1もできないことが多かったし、今でもそうです><

逆に1つでも出来たことがあれば、良かったと言っていいかもしれない。欲張らずに、何か1つできれば十分かと思いたい。

それを前提に、自由な時間を与えられたとき、その時間を有効に使うためにはどうしたらいいか？

完全に自分の意志で決められる時間があったとき、本当に自分の意志でその時間を使うことができるか？これは意外にも難しい。なぜなら、普段はやらなくてはいけないことは事前に決められていて、自分で自由に選んで生きているわけではないから、急に休みに入ったからと、自由時間を与えても、無為（なすべきことを何もしないで過ごす様子）に過ごしてしまうことになる。

では、本当はどうすればいいか？ これは提案になりますが、普段の意識や回路では、経験していない時間の過ごし方には対処できないので、それとは違う

回路や意識を使おうと思います。つまり、本当に自分がやりたいことを徹底してやってみる。すると、やりたいと思っていたことが、それほどやりたいことではないことに気づけたりし、本当にやりたいことが、その背後から現れてくるかも知れない。これは冒険かも知れないが、夏休みこそ、冒険をする絶好の機会である事も確かである。

そういう冒険を大いにしよう！！

追伸：但し、中学生は8月後期授業は試験対策になるため、夏休みの宿題は、冒険する前に終わらせる。(＞_<) 冒険したい人は夏休みの宿題終わってから、(^o^)/ 冒険しよう～～

☆ 能勢正人先生より



☆ 栗林淳先生より

◎ この夏、美術館へ行こう！！ ホンモノに会おう！

おすすめは東京上野公園にある東京都美術館で開催中のオランダ・マウリッツハイム美術館のコレクションです。フェルメール、レンブラント、ルーベンスなどのオランダ絵画が見られます。現代舞台の照明効果のような光の演出が卓越したレンブラントの自画像や、特におすすめはフェルメール「真珠の耳飾りの少女」、青いターバンを巻いているので「青いターバンの少女」とも呼ばれている絵です。一度見ると忘れられない不思議な雰囲気があり、暗い背景から浮かび上がる色彩が心に深くしみて来ます。使われている色数は多くないにもかかわらず静かな交響曲を聴いているような豊かさが感じられ、絵の前から立ち去るのが惜しくなります。

テレビや画集で見るのではなく、ホンモノの凄さはあなたの何かを変える力があると思います。



ヨハネス・フェルメール《真珠の耳飾りの少女》1665年頃

■会期：2012年6月30日(土)～ 9月17日(月)

■休室日：毎週月曜日（ただし、7月2日(月)、7月16日(月)、9月17日(月)は開室、7月17日(火)は閉室)

■開室時間：午前9時30分から午後5時30分まで（入場は午後5時まで）

■夜間開室：毎週金曜日は午前9時30分から午後8時まで（入場は午後7時30分まで）

☆ 山田由美先生より

学校の勉強は、人生の勉強の中のごく一部にすぎません。夏休みは本を読んだり映画を見たり、料理や手芸や電子工作に挑戦したりして自分の世界を広げてください。友達と遊びに行くのも大事なことです。おすすめの本は萩原規子の「勾玉（まがたま）シリーズ」、上橋菜穂子の「守り人（もりびと）シリーズ」、メグ・キャボットの「メディエータ・シリーズ」です。逗子の図書館のヤング・アダルトコーナーにあります。



☆ 平野麻美先生より

言葉を感じて、感じて言葉へ

今から十数年前？の夏休み、大学の卒業論文で専攻していた草野心平のゆかりの地、福島県上小川村と思わぬことで今話題の川内村に行ってきました。

草野心平は蛙の詩人として有名な人ですが、現地に行ってみて初めて分かったのです。

彼の生家の裏手に広がるのは広い広い広い田んぼ…そしてちょっとした声ならかき消されてしまう蛙蛙蛙蛙蛙の大合唱!!! とても蛙の種類まで聞き分けられません。

天然記念物モリアオガエルの生息地に続く道の入り口には何本か木の棒が立てかけてありました。そして看板「マムシ除けの棒」…？半信半疑で説明通りがさがさ周りを叩きながら進んでいくと、驚いたマムシがすぐ目の前をあわててジャンプして走り過ぎました。こちらもびっくり。太くて長くてとても立派でした。何年後かに改めて福島を訪れた時には、立派な草野心平記念館が出来ていて、心平本人の朗読の音声を聞くことができました。蛙語の発音は考えていたものと全然違う…！ 真似て発音してみると何とも不思議な巻き舌の、フランス語のような響きを持っていました。

行って初めて分かる事があり…そして言って初めて分かる事がある。

せっかくいつもとは違う時間の使い方が出来る夏休みです。目で見て耳で聞いて匂いを嗅いで肌で感じて舌で味わって、体全部を使ってまず「感じて」みてください。いつもは気にしたことがない、五感を澄ましてみてください。

特別な場所に行かなくてもいいんです。

普段は忙しくて気にすることがない空気の色・虫の音・花の香り・風の匂い…

本や情報、知識としてならもう沢山知っているだろうことを、ぜひ「自分」の「感覚」でとらえてみてください。

そして感覚でとらえたものをぜひ「自分」の「言葉」にしてみてください。

そうして、言葉は、あなたのものになります。

☆ 畑沢美千代先生より

みなさん、こんにちは。今年の3月から中学生と高校生の個別指導をさせていただいている畑沢美千代です。私は、2010年3月まで、夏の終わりには餌を求めて猿や熊が出没する新潟の田舎に住んでいました。そこは、本当に自然豊かなところでした。春の日課は山菜採り、夏は蛍が飛び交い、秋は飼っている犬と一緒に雑木林で栗拾い。冬は3メートルぐらい積もる大雪との戦いです。そんな私が縁あって、2010年4月に、金沢区にある関東学院大学の法科大学院というところに入学しました。法科大学院というところは3年間いるのが決まりなのですが、私の場合、1年目を飛ばして2年から始めました。ほかの人とは違うルートで始めるわけですから、大変なこともありました。勉強って本当に大変だと感じているみなさんと同じです。

でも、本当に一生懸命に頑張ればかならず成果が得られます。

勉強でもスポーツでも、一番大切なことは最後まであきらめずに頑張ることです。自分が頑張ったことは、目には見えないけれどもかならず大きな力となります。

もうすぐ夏休み。朝は6時半に起きて、3食きちんと食べて、昼寝をして、夜は10時半には眠りにつく。そういうなんでもないことが自分の生きる時間を豊かにしてくれます。

楽しい充実した夏休みを過ごしてください。

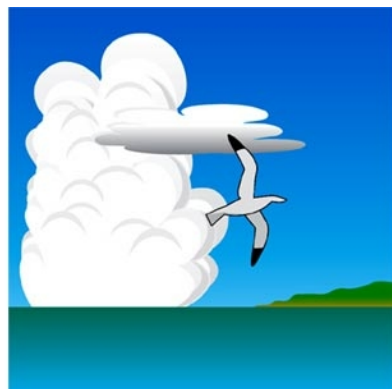
☆ 照下千恵先生より

夏休みに試してみしてほしいこと。それは、「この夏はこれを考えた」という具体的なテーマを一つ、持つことです。

「この夏にこれをした」という「体験」とは少し違います。「体験」は目に見える形を持ち、一応の成果ではありますが、最も重要なのは、「体験から自分は何を考えたのか」という点です。自分の心が求めるテーマを、自覚して、考えてほしいのです。

テーマを選ぶということは、自分の学びの方向性を定めることです。自分は何に興味があり、何を考え、行動してきたのか。その積み重ねが、その人を形づくるのです。夏の終わりに、「この夏はこれを考えた」とはっきり言葉で説明できる人は、来年の夏も新たなテーマを加えることができるでしょう。そして中学三年間なり高校卒業までのまとまった時間の連なりの中で、「自分が考えてきたこと」の連続性が自分自身を形づくっていることに気づくはずです。

「与えられた勉強」をこなすことが評価されるのは、せいぜい高校二年生の夏まで。そこから先は、基本的な学力に加え、「私はこれを考えてきた」と言える人が求められます。何より、テーマをもって生きることは、人生を豊かにします。今年の夏が、そのスタートになりますように。



☆ 小林博昭先生より

この夏何か始めたい人、変わるための一歩を踏み出したい人、始めようとすると、「忙しいなあ」「いろいろとあって…」となってしまう人へのメッセージ

やらない人はできない理由を探し
やる人はできる理由を探す

何かが出来ないとき、わざわざ出来ないことを言うための理由を探していますか？

それでは、何にも出来ないのは当たり前ですね。そんなときは、やりたいことを達成できる理由を考えてみましょう。「時間はないけど、うまく工夫することを考えて見よう！」「いろいろやることはあるけど、優先順位を決めてやってみよう！」などなど。

この夏あなたのやりたいことが達成できる理由は何ですか？

合併号の「Gakushikan だより」はいかがだったでしょうか？それぞれの先生方の言葉をぜひ自分の夏休みの生活に活かして行って下さい。

「Gakushikan だより」に載せて欲しい事など常に募集中です。何か思いついたら遠慮なく小林まで連絡を下さい。

H.P. <http://www.gakushikan.jp/> Mail genesis@gakushikan.jp

學志館能見台校 電話 045-782-4939 (文責小林)